

北陸石仏の会々報

第 1 号

平成5年2月2日発行

〒939-13

編集発行
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

電話 〇七六三一三二一二七二
振替 金沢 四一 一九七四



北陸石仏の会・発足にあたり

会長 藤村 善雄

平成四年十月十九日、富山県世話役の皆様のお骨折りで、待望の北陸石仏の会が設立されました。

発会式には、北陸四県の石仏に関心のある多くの皆様のご出席があり、殆どが初めてお会いする方々で大変有難い事でありま
す。また石仏協会会長、坂口和子氏がこの会のためわざわざ埼玉
より出席され御祝辞を賜り、そのうえ記念講演「石仏との出合
い」において苦勞話を交えて、今後の我々の会活動の指針を与え
て頂きました。

この会は北陸四県(新潟、富山、石川、福井)の会員が、年一回
の総会、各県で行う年四回の例会や会報を通じ、北陸を中心とす
る石仏や石造文化に関してお互いに研鑽を積むと共に、親睦を深
めることに有ります。そして例会に出席して四県の石仏を見、気
軽に話し合える会で有りたいと、念願しております。

一方で、日本石仏協会の北陸支部として本部と連絡を取りなが

ら協会誌を通じて全国の石仏情報を得るとともに、会員の方々と
連携を深めることももう一つの目的であると思えます。

協会誌「日本の石仏」は年四回出版され、石仏に関する各地の
珍しい話、本部及び支部各地で催される石仏めぐりや石仏関係図
書の紹介もされています。(年会費七〇〇〇円)

昭和五十四年五月の連休四日間、全国から集まった会員四十名
と小型バスで、本部主催の九州、国東半島石仏めぐりに私が参加
しました。これは楽しくてたいへん勉強になりました。

石仏協会は発足が昭和五十二年で、平成三年二月現在で全国会
員数は五二三名です。内、北陸四県は新潟十二名、富山七名、石
川一名、福井一名の計二十一名であります。

石仏のとらえ方は、芸術(美)的な見方、由来や製作など歴史
的視点、仏の種類や立っている場所などによって異なる宗教(信
仰)的な視点、特定地域のもの調査研究などいろいろあり、奥
深いものがあります。私は、昭和四十二年頃より北陸をはじめ、
全国各地の心に残る石仏を写真に撮り続けており、いろいろな楽
しみを味わいさせて貰いました。例えば①旅行する際には協会出
版の石仏地図などで石仏のありかを検討しておき、余暇を見つ

て撮る、旅行計画の楽しみ。②そうすることにより、思いがけない素晴らしい石仏に巡り逢える楽しみ。③どうして撮ろうかと考えて撮り、出来栄を期待する楽しみ（がっかりすることも多い）。④暗室で現像する際真っ白な印画紙の上に仏が瞬間的に浮かび上がってきて、手を合わせて拝みたくなる荘厳さを味わう楽しみ。⑤多くの同好の士を得て石仏について話す楽しみ。⑥石仏はその地域の方々の生活と密着したものでありますので、石仏を

一九九二・一〇・一九

北陸石仏の会（日本石仏協会北陸支部）

設立総会記念講演要旨



「石仏との出会い」

日本石仏協会会長 坂口和子

前日本石仏協会 大護会長のような偉い先生のとを受けて四苦八苦しています。たよりない私ですが、皆様がなんとか応援して下さいるだろうと思って引き受けました。

石仏にたいする情熱だけで、この道三十数年たってしまいました。石仏が私をとらえて離さなかったことは何だったのだろうか、おそらく皆様も同じ気持を、それぞれお持ちになっただろうことだろうと思います。「石仏との出会い」という題名を頂きましたが、皆様の石仏との出会い、ふれあいをうかがってみたいと思つて富山にやってきました。魚津に友人がいますし、八尾の風の盆にも何回か来ているこの富山の今日のためたい発会式にお招き頂きました。うれしく思います。

今日の会合は女性の方が多いようです。

通して地域との関わりあいを考える楽しみ。⑦多くの写真が集まると、どう分類し、どうして纏めようかと考える楽しみ。

「心のゆとり」が強く求められる現在、北陸石仏の会の役割は大きいと思われまふ。幸いなことに本会には、石仏・石造物の専門研究者である京田良志先生をはじめ、造詣の深い方が大勢居られます。この方々のご指導を得て、本会が、大きく発展するように祈念して巻頭文といたします。

他の普通の会合は男性の方が多い、高齢の方が多いようです。私は石仏の会には若い人達に参加して欲しい、小学生の子供達にも話させて欲しいといつも願っています。それほど最近では文化遺産を大事にしない、意識しないという風潮が強くなっています。関東では、宅地開発などで小さい石仏がなくなったり、見えなくなつてきています。このことは日本全国でいえることかもしれません。

私は、『飯能市の石仏』を編集して、石仏の戸籍簿を作ってきました。戸籍簿があれば、修復したり、元に戻すことができます。思っています。いっしょに調査してきた仲間の人達にも石仏とはすばらしいものだ、日本人の心がこもっている所産だという意識をもってもらいたいと願ってきました。

骨董品とは五十年以上たったものだといっています。石仏は二百年、三百年とたっている。

東京では、骨董品屋の店先に出ている。値段がついている。戒名の入った墓標仏まである。墓標仏を庭に置く人がいる。私達は石仏はあるべきところ、墓地、寺、野にあってこそ自然な気持ちで接することができると思っています。石仏がどうして面白いのか。私の場合は、上州の道祖神が最初です。初恋のような気持ちがか今でも忘れられません。

小さな、かわいらしい道祖神、土のにおいに魅せられた日本人らしい精神構造を知ることができるのではないか。上州に通いました。

心が慰められました。写真を撮ったり、研究しようという気持ちには、初めはなかったが、それだけでは物足りなくなり、石仏の背景、歴史にふれていかざるを得なくなりました。時代の資料、寺の宗門人別帳、刻んである銘文の疑問を解いていくため石仏関係の本が机上にたまっていききました。石仏の本があまりなかった頃ですが、最初に手にとった本が性神の研究書で、路傍の石仏はどれも、何らかの形で性の象徴をしているというものでした。『日本の石仏』の性神特集では沢山の原稿があつまりました。庶民信仰の底流には性神、作神、豊饒の気持ち強いという、皆様のたくさんの原稿があつまって面白いものになりました。若杉慧氏の『野の仏』に触発され文を書くことが好きだった私も石仏のエッセーを書き始めました。石仏とのめぐりあいは、私の人生の半分を決定しました。

石仏との出会いは人との出会いです。人間のいない石仏はな

い。建てた人、彫った人、折る人、守り続けた人、すごい感動を覚えます。私は最近、外国旅行をして仏教の源流をさがし歩いています。庶民が作った石仏を庶民が守っているという国はビルマ（ミャンマー）を除いてないのではないか。ほとんど権力者によって建てられている。

日本人を考えるときにおおきなテーマになっている、自然界すべてのものが仏であり神であるという心、宗教心といっているのか。日本人は本来ウェットで、自分の心のよりどころを作り、祈ったり、拜んだり、守ったりしてきた。今でもそれは続いている。また私達もそれを大事にしていきたい。

石仏協会は『石仏図典』を編集しました。

『続石仏図典』も編集集中です。それぞれ千二百体、五百体以上の神名、仏名が報告されています。誰でもが石仏の創造者になってきたのです。そういうことが日本人の精神構造に、仏教心とはいれないが宗教的な心があるということに私は肯定的な気持ちになつてきました。

私は『日本の石仏』に「人・ひと」という記事を書いている。

石仏との出会い、動機を聞くと、大護さんは考古学から入ったといわれる。写真から入った人、山歩きをしていて頂上に石仏があり魅せられたという人がいます。最近、水道関係の人が水源を調査していて、弁天様、水神様や不動様の多いことが気になり、私に質問されたので、技術屋さんでも、水質だけでなく、石仏を勉強すれば過去の人達と水での対話ができるでしょうとお話ししました。石仏はどこからでも、どなたでも入れる。ふところが広い、奥が深い、最近生涯学習が叫ばれています。身体は健康も、心

の健康も同時に得られるバランスのとれる趣味ではないかと思えます。

私の子供が小さい頃、よく墓地や寺につれ歩いたので、石仏の名前をよく覚ええました。

そのうちに僧侶になってしまいました。すすめたのではないが、永平寺で修行してきて今は僧侶です。石仏の御縁でしょうか。写真家の長谷川聡子さん。都庁に勤められていました。道祖神から入ってこられました。癌に冒されて逝きました。今年七年忌です。入院中に主治医に頼み、廊下に机を入れてもらい、『女人の仏』を書き上げた。NHKで柳田邦男さんが放映されました。本にも書かれました。私も取材に応じました。聡子観音を皆さんの浄財で建立しました。毎年八月三十日の命日に集会を持っています。お寺さんは永代供養はするが、石仏協会有志で守りしていかないと無縁仏になってしまうといわれた。

路傍の石仏は、いつも花が供えてある。これはすごいことだと思ふ。私は、長谷川さんの観音石仏を建てたが、これは簡単に考へてはいけないことではないか、あ、しまったと思う時代がくるのではないか、大きな問題だと思ひます。

テレビを見ていて、石仏などが出てくると私はその像容で、その地方の特色が大体わかる、これは『日本の石仏』誌上でたくさん石仏を見ているからです。石仏を見ていやだと思ふ人はいないでしょう。これが日本人の心です。研究というようにめんどろに考へないで、ここにこんな石仏があるんだというように気軽に『日本の石仏』に投稿して下さい。

写真のページやハガキ通信にも送って下さい。大勢の人に石仏

を愛して欲しいと願って編集しています。できるだけ難しいことを少なくして、楽しい総合雑誌にしていきたいと思ひます。行事も事前にお知らせ下さい。北陸支部ができたので、関東地方とながったわけです。支部を通じてお願いしたり、報告していただくので大変ありがたいことです。

まったくとりとめのない話でしたが、皆様の方が専門的なことにくわしい、よく知っておられることだろうと思ひます。

今日は、皆様とご一緒できて、たいへんうれしく思っています。

私は、夫を三年前に亡くしました。脳こうそくで五年間つきそいました。石仏があつてこそ耐えられた。つきそいの間に勉強する心の余裕を与えてくれた。若いときに始めたことを今でも続けている。子供も、その方面に進んだ。石仏を勉強される方々にお目にかかり、刺激され、励まされた。人との出会いということの力を石仏は持っている。情熱が続く限り続けていこうと思ひます。

最近女性の方がボランティアで石仏の調査の仕事を楽しみながら、あっちこっちでやっておられる。すばらしい仕事です。行政のほうで知らないことも、支部ができれば公になるわけですから、悉皆調査のきっかけになります。北陸四県の石仏の体系的なもの、鳥瞰図、絵図面ができればよいのではないか。整ってくれば点から面になります。いずれ石仏学という学問もできるのではないのでしょうか。石仏協会ということより、日本の文化遺産を守るという気持ちでやっていきたいと思ひます。

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)会則

- 一、本会は「北陸石仏の会」(日本石仏協会北陸支部)と称し、福井・石川・富山・新潟四県の会員ならびに賛同者によって構成する。
- 二、本会の事務局は役員宅におく。
- 三、本会の事業は、北陸を中心とする石仏など文化財の研究を目的とし、年四回以上の例会を行う。また会報の発行・情報の交換・関連文献などの紹介ならびに取次をも行い会員相互の親睦をもはかる。
- 四、会員は年会費として、金一、五〇〇円を納入する。本会の年度は毎年一月一日より一二月末日とする。
- 五、本会の役員は総会において選出する。本会に下記の役員をおく。
会長(支部長)一名、副会長(副支部長)三名
事務局長一名、幹事若干名、監査一名
- 六、役員の任期は二年とし、再任をさまたげない。会長は会務を総括し、副会長は会長を補佐する。
事務局長は幹事とともに、事務・会計を担当する。
役員は会長の任命により事務・調査・会報を担当する。
監査は会計を監査する。役員の担当は必要に応じ兼務を妨げない。
- 七、本会に顧問をおくことができる。
- 八、総会は年一回とし例会を兼ねることができる。役員会は会長がその必要を認めるとき召集する。
- 九、本会の経費は年会費・例会費・寄付金・雑収入を以ってあてる。
- 十、本会の会則の変更は、総会の議決による。



地藏菩薩

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)組織について

一、名称について 「会則一」

二、事務局について 「会則二」 富山県砺波市太田一七七〇
尾田武雄 一九九一―三

三、事業について 「会則三」

四、年会費と年度について 「会則四・九」

五、役員について 「会則五・六・七」

・会長(支部長) 一名 藤村(石川)

・副会長(副支部長) 三名

北野(福井)・京田(富山)・阿部(新潟)

・事務局長 一名 柳沢(富山)

・監査 一名 渡辺(新潟)

・幹事 若干名

尾田・晒谷・樽谷・平井(富山)

大久保・山本(福井)

久世・木綿(石川)

石田・星野(新潟)

六、総会について 「会則八・十」

七、例会について 「会則三・八」

八、会報について 「会則三」

・年四回発行

・例会(総会)の記録と次回例会(総会)案内

・その他 調査・研究・情報交換・文献の紹介など

九、その他

・今年、来年の年度について

今年(平成四年) 一二月三十一日までを平成五年度とみなすこと。

・次回例会・次回総会について

三月 石川県(金沢市)

六月 新潟県(柏崎方面か?)

九月 福井県(若狭方面か?)

一二月 富山県(総会と例会、方面未定)

北陸石仏の会第一回例会記録

設立総会の翌日(十月二十日・火) 総会会場となった富山市奥田新町の銀嶺荘を貸切りバスで出発。JR富山駅北口でJR等での参加者を加えて一路、大磨崖仏で有名な、大岩山日石寺へ向かった。バスを降りて長い石段を登り本堂前に至ると、早速周辺の石仏の説明があり、カメラのシャッターが盛んに切られた。本堂内に入り礼拝の後、大岩不動三尊磨崖仏と弥陀・像形像について、京田副会長から詳細で懇切な説明があり、全員敬虔な気持ちの中で熱心に拝聴し、また質問も数多くあった。本堂外左後の六本滝や三重塔など境内全域を見学、特に熱心な会員は細い山道を谷川沿いに奥の院まで見学に足を延ばされた方もあった。予定時間をオーバーする程の見学を済ませて、バスで次の見学地、芦峯の立山博物館へ向かった。

立山博物館は、「立山風土記の丘」の一面に平成三年十一月に

開館された。オープンしてから間もないので、県内の方々でも初めての人が多いようだった。建物内周沿い立山登拜路を思わせる階段を三階に上がると、第一展示室で立山信仰の舞台となった立山の自然について展示してある。館長の説明を聞きながら丹念に見て歩く人が多かった。二階は立山信仰の世界として、立山開山にまつわる伝説や、立山の地獄などの展示がなされている。左隣の公民館をお借りして、富山名産の鱒寿司のお弁当で昼食を済ませてから閻魔堂とその周辺の石造物、明念坂の貞亨二年六地藏、赤い布橋、惣墓の六地藏磨崖仏、布橋下の磨崖不動像や数多くの石仏について、京田副会長の説明を聞きながら見学して歩いた。ここは博物館の映像ホール「遥望館」があり、布橋灌頂会の儀式の様や、立山曼陀羅絵図・立山の自然を三面大型映像画面で現代的に追体験することが出来るようになっており見学する人が多かった。

第一回の例会の石仏見学会の為、各地で活躍しておられる方々が大勢参加されて、一日目一杯見学を楽しみ、多くの知己を得て、実りの多い見学会であったとおもいます。

設立時期の関係で、総会会場や宿泊施設の確保の関係もあって、設立総会、第一回例会とも平日となり、参加出来なかった方々が多かった事は、大変残念で申し訳無く思っています。次回例会からは日曜に実施致しますので、大勢の参加をお願い致します。参加者は、二六人。本部から坂口会長、小松幹事をはじめ、地元富山県では全域からの参加があり、福井県、石川県、新潟県からも多数の参加が有って、盛会でした。



第一回例会参加者
(順不同)

- 藤田正時
田村京子
斎藤善夫
佐々木春子
大浦美子
太田幸子
京田千鳥
北野正明
尾田武雄
晒谷和子
京田良志
大久保まさ子
柳沢栄司
平井一雄
面川彰子
小松孝
川村新治
千秋謙治
大野猪策
細川祐子
林貞子
岡田静子
京田悦子
土井了宗
坂口和子本部長

北陸石仏の会第二回例会案内

左記の要領で、例会を金沢で実施致しますので、万障繰り合せてご出席下さい。

月日 平成五年三月二八日(日)

時間 集合 午前九：二〇 JR金沢駅中央出口(ホーム前)

解散 午後三：五〇 JR金沢駅中央出口(ホーム前)

調査場所 一、金沢城三十間長屋・尾山御坊跡の塔身

及び石仏 二、歴史博物館・普正寺遺跡の石仏

三、兼六園横・成巽閣の石幢

四、兼六園竹沢御殿跡の地藏

昼食(兼六公園内の茶店・東山)で

五、六斗広見・月照寺の六十六観音(鶴来街道、卯辰山)

山)

六、野田山墓地・前田家一門の石塔・石廟の二十五菩薩など

薩など

会費 貸切りバス、入場料、昼食代を含め 五、〇〇〇円

参加希望の方は、三月一五日(月・必着)まで、葉書に

住所、氏名を記入の上下記の所までご送付ください。

〒920-03 金沢市藤江北三二二七

藤村善雄 電話〇七六二一六七七―三五三九

バス 北陸鉄道のマイクロバス(20人乗り)

昼食 東山(約二〇名にて予約)

拝観料 歴史博物館、公園、成巽閣

北陸石仏の会入会のすすめ

北陸四県と四県以外の方も入会を歓迎いたします。

会費の振込みは、同封の振替用紙をご利用ください。

尚、例会への参加は、会員であるなしを問いませんので、お誘い

合わせの上、多数でご参加下さい。

日本石仏協会入会の御案内

左記振替口座へ、年会費七〇〇〇円(一〜十二月分)をお振込

みください。会員の登録は年度ごとに更新いたしますので、年度

途中で御入会の会員には、年度はじめにさかのぼって機関誌をお

送りいたします。

郵便振替口座 東京八一五三二一四 日本石仏協会

御問合せ

事務局へ往復ハガキで御連絡ください。

日本石仏協会事務局

〒170 東京都豊島区巢鴨三二五十八

国書刊行会内

受贈御礼(お酒・設立総会時) 前田広氏、京田千鳥氏。

〔題字〕 佐々木 春子(書家) 北陸石仏の会会員